【栢ノ木区】

ほたるの里づくり

事業の目的

区内を流れる川を清掃し、年間を通じて清流の維持に努め、河川上流に居住する者としての環境保全意識を涵養する。

水と土壌汚染のバロメーターとして蛍を育てながら、沢蟹、どじょうなどの魚、トンボといった多様な生物が繁殖し、子ども達が自然と触れ合える環境作りを目標とし、魅力的で誇りを持てる郷土を維持する。

事業の内容

①河川清掃・環境整備（地域ごと６～８回、全員清掃・環境整備４回）
環境整備として、多種の生物が生息できるよう川に澱みや溜まりを作り清水が常時流れるようにした。

②子ども会との協働（２回）
川の状況および蛍の一生を勉強、カワニナ・蛍の幼虫放流、河川清掃、川遊び（フィールドワーク）

③蛍養殖施設と年間の環境保全についての研修
天竜川流域の長野県辰野町を視察。カワニナ養殖の要領、水質・流水の維持、川岸の環境条件等を研修。

④国道２４６号線清掃・草刈り（４回）
歩道や中央分離帯の雑草にたまったゴミが河川を汚す原因となる。清掃活動及び草刈りを行った結果ゴミが著しく減少した。

↑　河川清掃成果と環境保全を促進する立札

↑　子ども会との協働。世代間交流を図るとともに、自然で遊ぶ楽しさを伝える。

↑　蛍先進地での研修　　↑　国道２４６号での活動の様子

事業の成果

①年間を通し河川のゴミを拾い、きれいな川の維持に努めるとともに生活排水の浄化に必要な清流の維持ができた。

②報道もあり区民の方々に事業内容が浸透し、環境保全の意識から川の汚れが著しく減少した。

③子供会との協働により親子で川の生態を研修するとともに、区内の河川環境に親しむという郷土意識の滋養ができた。

④道路を含む川の付近の清掃・整理が大切であることの自覚を得た。

今後は、「ほたるの里づくり」を通して区民の環境保全のさらなる意識向上や奉仕の心を育てていきたい。

【森之腰区】

笑顔のもりのこし

（子供達の絆を深める運動、
多世代への交流を深める運動）

事業の目的

- 森之腰区は校区が分断されているが、区民と成長していく大事な時期の子ども達により多くの絆を持たせるため各種団体が一丸となって行動を計画し、児童の育成に貢献する。
- 世代の壁を取り壊し、幅広い年代の人が一堂に会する催しを複数開催することで参加者同士にコミュニケーションが生まれ、多世代が自然に集う地域づくりを行う。
- 各団体および商店街とのつながりを強化することで活性化につなげる。
- あいさつを通した地域づくりを昨年度に引き続き行う。

↑　生け花教室

事業の内容

①森之腰区および区内各団体が協働し世代の枠を超えたイベントを開催し、交流を図った。具体的内容は事項の表参照。

②合計 32 回にわたり、のぼり旗を持ちたすきを掛けた区運営委員会及び各種団体、学校の PTA など大勢で小中学生の登校時あいさつ運動を行った。

あいさつ運動　→

実施イベント一覧

	名称	団体	開催日		名称	団体	開催日
1	児童学習サロン	地域福祉推進委員会	毎週金曜日	6	餅つき大会	青年会、子供会、ＰＴＡ	１１月１１日
2	生け花教室	地域福祉推進委員会	７月１４日	7	三世代交流大会	体育、老人会、公民館	１２月８日
3	人形劇	公民館活動委員	８月４日	8	わらべ歌で遊ぼう	地域福祉推進委員会	１月１５日
4	ふれあい教室	防災委員、公民館、火防隊	９月２２日	9	保護者との料理教室	婦人部	２月３日
5	育てよう花を	花の会	１０月６日	10	映画と事業活動報告会	公民館活動委員会	３月１０日

↑　三世代交流大会

↑　保護者との料理教室

↑　育てよう花を

↑　わらべ歌で遊ぼう

事業の成果

①森之腰区各団体がそれぞれ工夫を凝らし、子ども達を中心に各世代の人に声をかけた結果、行事を重ねるごとに区民の関心も高まり予想以上の参加者が得られた。

②昨年度より行われているあいさつ運動は、今年度も森之腰区と学校、各団体が一体となり取り組み、あいさつの習慣を広めるだけではなく、地域の絆を強めることができた。

③多くの区民が世代を超えて顔見知りになり、お互いに足りないところを補いどの行事も明るくにぎやかで楽しい幅広い多くの絆が生まれた。